



別所憲法9条の会 たより

2024年1月号 第186号

安保法制廃止・軍事費倍増・軍備強化を許さない・敵基地攻撃能力保持反対・9条守って平和外交を！

新年を祝う元旦夕、日本列島日本海側が、地震と津波に見舞われました。八王子でも揺れを感じる大地震でした。多くの命が奪われ、家屋倒壊の甚大な被害、寒い中での被災された方々の避難生活に心が痛みます。少しでも不安が解消されますようにと願うばかりです。そんななかでも、銀色に光る木蓮や辛夷の空へ向いた春待目を見ていると少し元気が湧いてきます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は「1強支配」の自民党政治による政治家のおごりが露わになりました。最大派閥安倍派では、政党交付金に加えて政党・支部経由で受け取る企業・団体献金を二重取りし、さらにパーティー券収入を得るという許しがたい腐敗体質です。このような弊害を是正するには、派閥の解消や世襲に制限をかける等含めた政治改革が必要です。いかに透明な政治が取り戻せるのか、私達も正念場を迎えているのではないのでしょうか。



1月のご案内

1月例会

日時 1月29日(月) 13:30~16:00

会場 長池公園自然館 第一会議室

内容 パレスチナの昨日、今日、明日

ー歴史からイスラエルを捉えなおすー

パレスチナ問題について問われることがある。しかし…、

パレスチナに問題があるのか？ 問題を起こしているのはパレスチナなのか？ そこに誤解があるのではなからうか？

パレスチナを、時間という垂直軸と場所という水平軸の交点として捉えるために、イスラエルの歴史を通して考えてみよう。

講師 清水竹人さんにお話しいただきます。

参加費 300円

★新型コロナ感染症対策については、会館の指示に従ってご参加下さい。

堀之内駅前での宣伝
1/29(月)10:00~
9条守ろう
軍事費増やさず平和外交

1/8(月・休)
14:00~
八王子アクション

1/19(金)
18:30
戦争させない・9条
壊すな 19日行動
議員会館前



12月は懇親会でした

各自持ち寄りの飲み物(お茶・ビール・日本酒・ワインそして人参酒など)で乾杯。

昨年は会としては久々の大きな行事「私たちの町にも戦争があった！展」を開催し多くの地域の皆さんに参加頂き、交流も生まれ、元気をもらった年でした。懇親会では思い思いの意見続発！！普段はなかなか出来ない意見交流時間は予定オーバーして終了しました。

今年もまたこのような気軽な楽しい交流の時間も持ちましょう。

ひとこと

1月21日は八王子市長選挙の投票日です。

自公市政をただし、改憲反対、平和を求め行動する八王子市政をと望むばかりです。 関

2023年の国会では、国民生活とアジアの平和を犠牲にした岸田大軍拡の問題が議論されるべきでした。でもそのことは、十分に議論されないままでした。そのなかで、自民党の（あいもかわらぬ）腐敗体質が明らかになりました。こういう法律違反を繰り返す、あるいは法律の裏をかこうとする政党に、憲法の改正を主張する資格があるのでしょうか。この「どの口が言う」改憲は、野党が要求する臨時国会の招集決定を拒んでおきながら、「臨時国会の一定期間内の招集決定義務を憲法で明示する」改憲案を臆面もなく提示する態度、国立大学へ配分される文教費を抑制する予算をつくっておきながら、「教育費の無償化を憲法で明示する」改憲案を臆面もなく提示する態度と共通していますね。臨時国会の招集決定も教育費の無償化も、憲法改正などせずに、現行憲法下でとっとと実現できるし、また実現すべきなのです。

ところで臨時国会終盤の12月7日、衆院憲法審査会で、自民党の中谷元議員が「緊急事態における国会機能維持のために議員任期を延長する憲法改正について、来年の通常国会で、具体的な条文の起草作業を行う機関を設け、起草作業のステージに入ることを提案する」と述べました。これは大きく報道されませんでした。しかし改憲動向の大きなポイントと思われるので、注目していただきたいことです。

第一に、これまで衆参の憲法審査会では、自由討論として改憲の主張はありました。しかし具体的な改憲案の提示、それに基づく審議は行われませんでした。これを一步進めようというのが、中谷発言の意味です。



第二に、これまで衆参の憲法審査会では、与野党の合意に基づく運営が基本とされました。これを中山ルールといいます。しかし中谷発言は、野党第一党の立憲民主の反対を押し切っても改憲草案の審議に入ろうとする意欲を示したとも見えます。中山ルールを廃棄して、改憲派が独断で改憲手続をすすめようとしているのです。

第三に中谷発言は、自民党の突出した議論ではなく、改憲派、とくに国民民主や維新のような「野党」の圧力を受けて出てきたということです。改憲野党は、これを主張することで、有権者にその独自性をアピールしようとしています。



では、改憲派はいまどのような改憲を表に出すのでしょうか。もちろん九条を変えて「軍隊をもつ国」、「戦争をできる国」づくりをすすめるということが、その根本にあります。しかしそういう軍事主義的な改憲は、国民の反発を招きかねない。そこで改憲派は、それをカモフラージュする緊急事態条項創設改憲を押し出そうとしています。この危険性について、ここで詳細に述べることはできません。とりあえず、「緊急事態に、国会議員選挙を延期し、国会議員の任期をいつまでも延長できる改憲」とまとめることができます。この危険性について、詳しくは改憲問題対策法律家6団体連絡会でつくった『国会議員の任期延長改憲』というサイトにアクセスしてください。

もしもこんな改憲をしたらどうなるでしょう。緊急事態がいつまでも続くほうが、現職議員には大助かりです。落選の心配なく、勝手なことができるからです。「そんな改憲を議員が認めるはずがない」ですって？ 権力を疑わない国民のいる国で、民主主義は維持できません。あれほどカネに汚い議員たちが、緊急事態を口実に、任期を無限に延長できる緊急事態条項改憲の誘惑に抗することができるはずがない。しかしこの改憲は、民主主義の不可逆的な破壊を意味します。

24年の改憲動向は、この緊急事態条項改憲を軸に展開すると思われます。

